

「令和4年度(2022年度)歯科衛生士勤務実態調査 集計結果」

令和5年7月  
保健福祉部健康安全局地域保健課

## 【はじめに】

### 1 経緯

道内の歯科衛生士就業者数は、人口10万人対では全国の平均を上回っているものの、その就業地域は都市部に集中しており、地域偏在がみられることから、全道の歯科衛生士の勤務実態を把握することにより、復職支援等の歯科衛生士の人材確保に向けた検討を行う基礎資料とするため、本調査を実施することとした。

### 2 調査対象

現在勤務する歯科衛生士(約6200名)

### 3 調査方法

歯科衛生士業務従事者届と合わせ、各歯科医療機関等へアンケート調査を依頼。

### 4 回答方法

道の「簡易申請システム」を利用したWebアンケート調査とし、任意回答とした。

### 5 調査期間

令和4年12月12日から令和5年1月16日まで

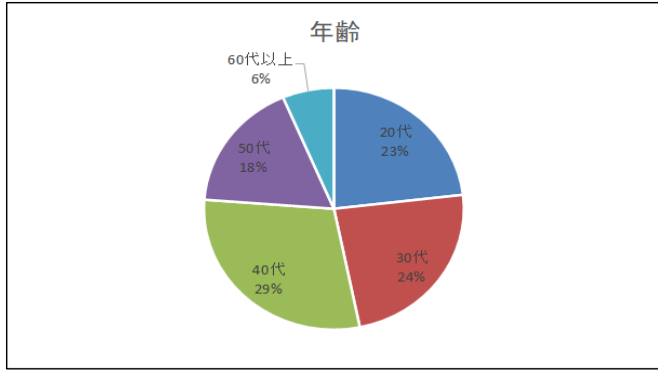
### 6 調査回答者数および回答率

回答者 626名

参考:回答率(推定) 10.1%

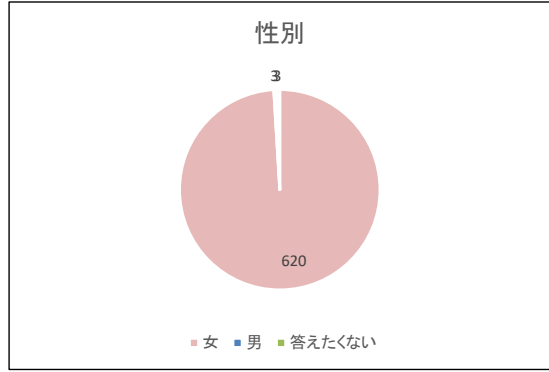
【令和4年度(2022年度)歯科衛生士勤務実態調査について 集計結果】

●問1 あなたの年齢を教えてください



	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
回答	145	148	184	109	40	626
割合	23.2	23.6	29.4	17.4	6.4	%

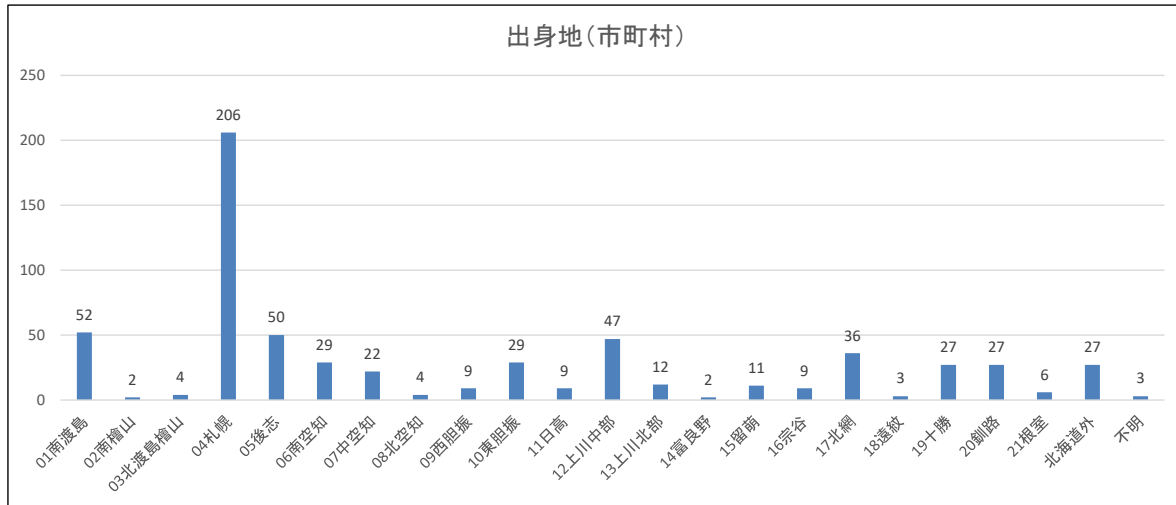
●問2 あなたの性別を教えてください。



	女	男	答えたくない	合計
回答	620	3	3	626
割合	99.0	0.5	0.5	%

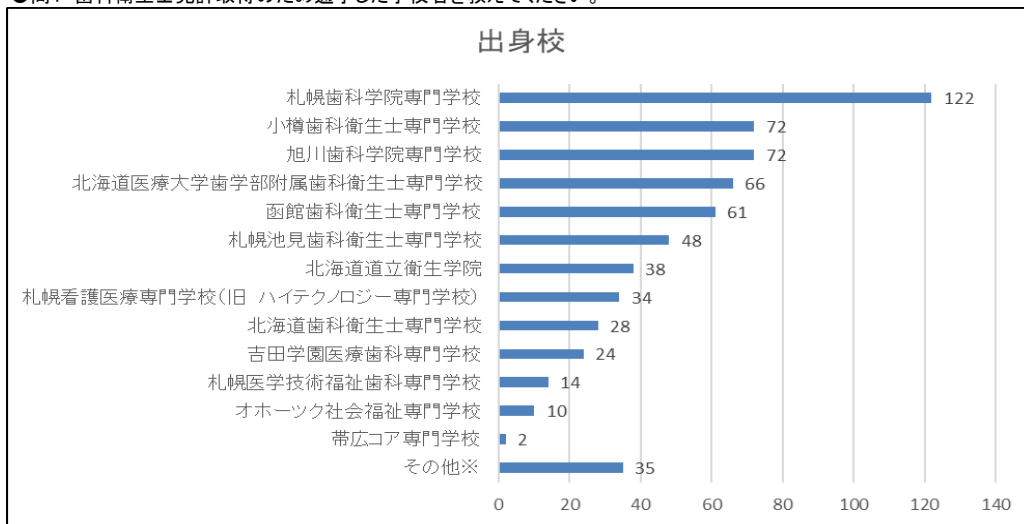
回答者の年齢層は20代、30代、40代がいずれも25%前後であり、年齢層の偏りはない。

●問3 あなたの出身の市町村名を教えてください。



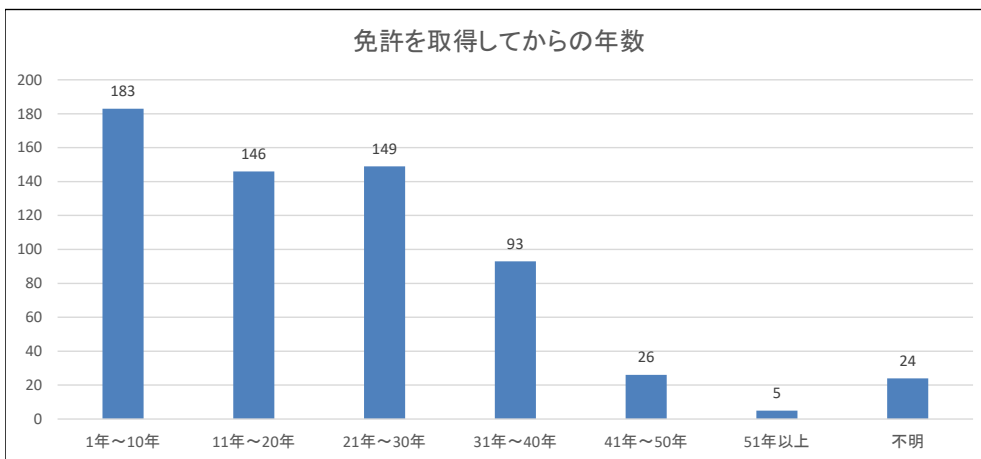
	01南渡島	02南檜山	03北渡島	04札幌	05後志	06南空知	07中空知	08北空知	09西胆振	10東胆振	11日高	12上川中部
回答	52	2	4	206	50	29	22	4	9	29	9	47
割合	8.3	0.3	0.6	32.9	8.0	4.6	3.5	0.6	1.4	4.6	1.4	7.5
	13上川北部	14富良野	15留萌	16宗谷	17北網	18遠紋	19十勝	20釧路	21根室	北海道外	不明	合計
回答	12	2	11	9	36	3	27	27	6	27	3	626
割合	1.9	0.3	1.8	1.4	5.8	0.5	4.3	4.3	1.0	4.3	0.5	%

●問4 歯科衛生士免許取得のため通学した学校名を教えてください。



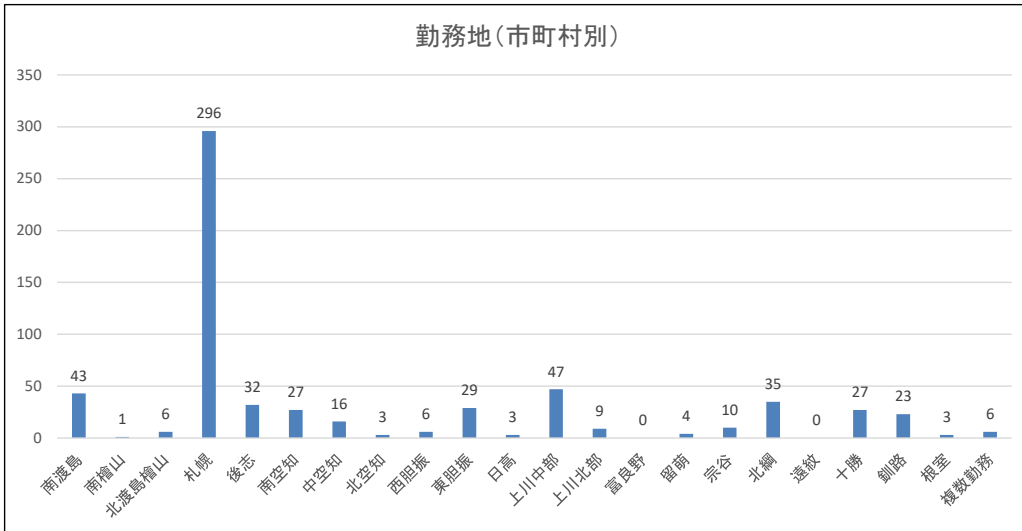
	札幌歯科学院専門学校	小樽歯科衛生士専門学校	旭川歯科学院専門学校	北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校	函館歯科衛生士専門学校	札幌池見歯科衛生士専門学校	北海道立衛生学院	札幌看護医療専門学校(旧 ハイテクノロジー専門学校)	北海道歯科衛生士専門学校	吉田学園医療歯科専門学校
回答	122	72	72	66	61	48	38	34	28	24
割合	19.5	11.5	11.5	10.5	9.7	7.7	6.1	5.4	4.5	3.8
	札幌医学技術福祉歯科専門学校	オホーツク社会福祉専門学校	帯広コア専門学校	その他※						
回答	14	10	2	35						
割合	2.2	1.6	0.3	5.6						

●問5 あなたが免許を取得してからの年数を教えてください。



	1年~10年	11年~20年	21年~30年	31年~40年	41年~50年	51年以上	不明	合計
回答	183	146	149	93	26	5	24	626
割合	29.2	23.3	23.8	14.9	4.2	0.8	3.8	%

●問6 あなたが現在勤務する施設が所在する市町村名を教えてください。



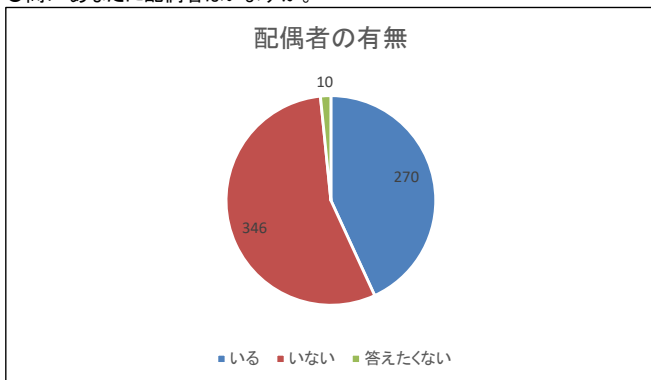
	01南渡島	02南檜山	03北渡島檜山	04札幌	05後志	06南空知	07中空知	08北空知	09西胆振	10東胆振	11日高	12上川中部	13上川北部
回答	43	1	6	296	32	27	16	3	6	29	3	47	9
割合	6.9	0.2	1.0	47.3	5.1	4.3	2.6	0.5	1.0	4.6	0.5	7.5	1.4

	14富良野	15留萌	16宗谷	17北網	18遠紋	19十勝	20釧路	21根室	複数勤務	合計
回答	0	4	10	35	0	27	23	3	6	626
割合	0.0	0.6	1.6	5.6	0.0	4.3	3.7	0.5	1.0%	

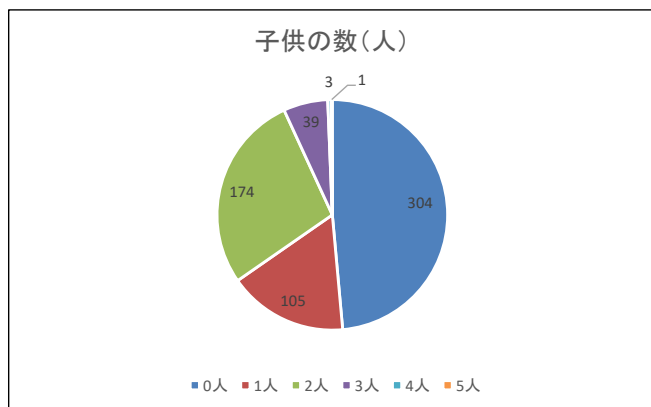
【問6】回答者は札幌近郊居住者が多く、勤務地も札幌近郊に集中している。

●問7 あなたに配偶者はいますか。



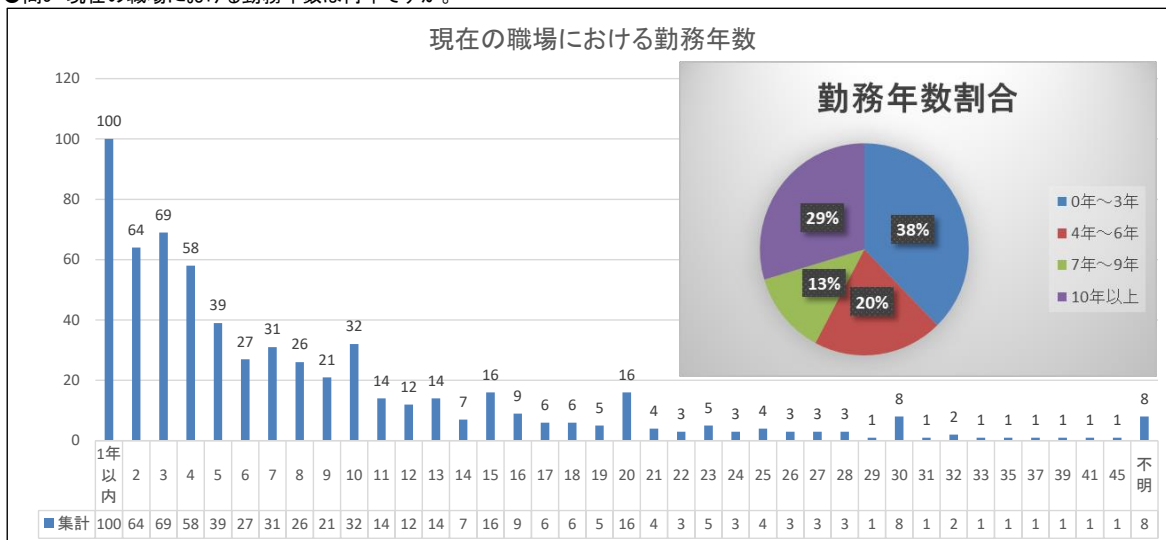
	いる	いない	答えたくない	合計
回答	270	346	10	626
割合	43.1	55.3	1.6	%

●問8 あなたの家族の子どもの人数を教えてください。



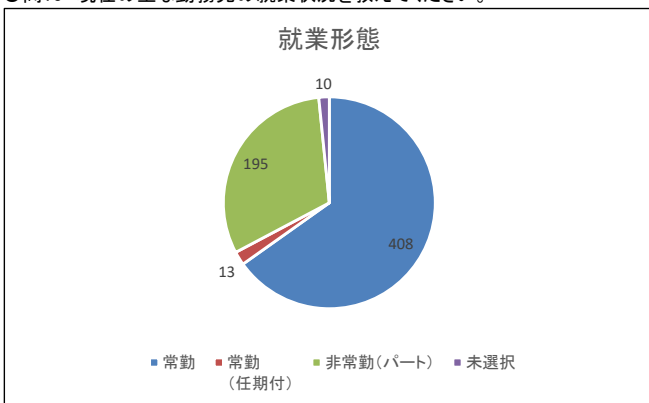
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	合計
回答	304	105	174	39	3	1	626
割合	48.6	16.8	27.8	6.2	0.5	0.2	%

●問9 現在の職場における勤務年数は何年ですか。



【問9】現在の職場における勤務年数が3年以内と回答した割合が38%である。

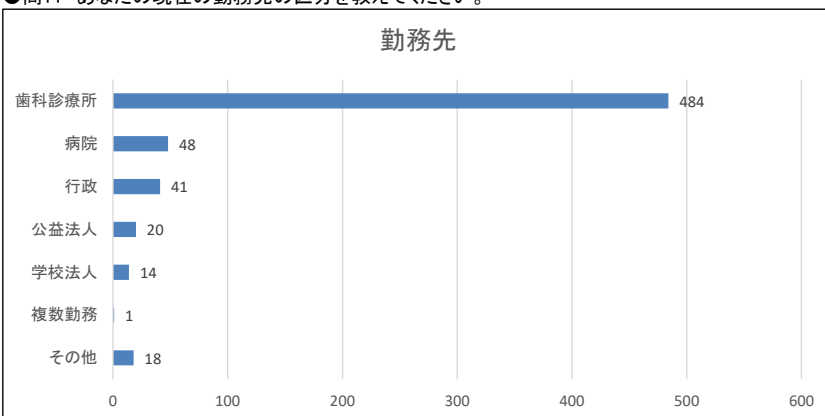
●問10 現在の主な勤務先の就業状況を教えてください。



【問10】勤務形態を非常勤と回答している割合は30%を超え、過去に行った調査においても同様の結果である。  
【参考】平成29年度歯科診療所における歯科衛生士勤務状況調査

	常勤	常勤(任期付)	非常勤(パート)	未選択	合計
回答	408	13	195	10	626
割合	65.2	2.1	31.2	1.6	%

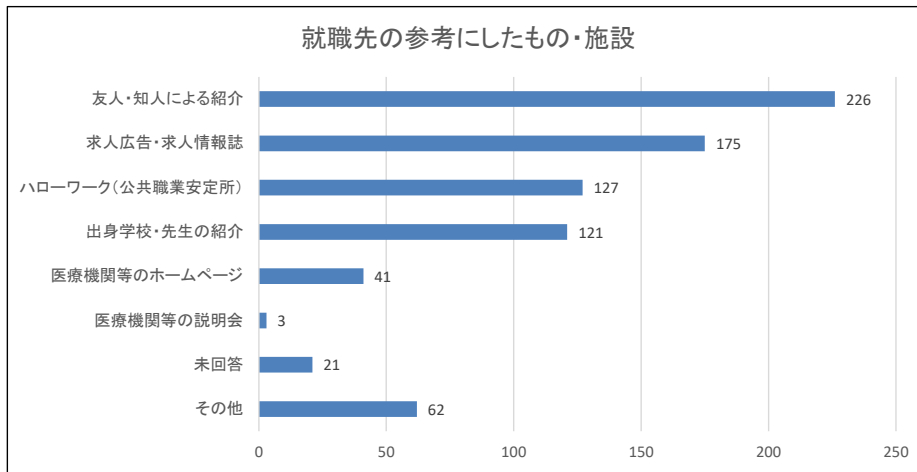
●問11 あなたの現在の勤務先の区分を教えてください。



	歯科診療所	病院	行政	公益法人	学校法人	複数勤務	その他	合計
回答	484	48	41	20	14	1	18	626
割合	77.3	7.7	6.5	3.2	2.2	0.2	2.9	%

勤務先の区分は歯科診療所と回答している者が77%を超える。  
過去に行った調査結果では、1歯科診療所あたり平均2.32人の歯科衛生士が勤務している。  
【参考】平成29年度歯科診療所における歯科衛生士勤務状況調査

●問12 あなたは今の就職先に就職するにあたり活用した施設・方法は何ですか(3つまで回答可能)。



	友人・知人による紹介	求人広告・求人情報誌	ハローワーク(公共職業安定所)	出身学校・先生の紹介	医療機関等のホームページ	医療機関等の説明会	未回答	その他	合計(重複)
回答	226	175	127	121	41	3	21	62	776
割合	29.1	22.6	16.4	15.6	5.3	0.4	2.7	8.0	%

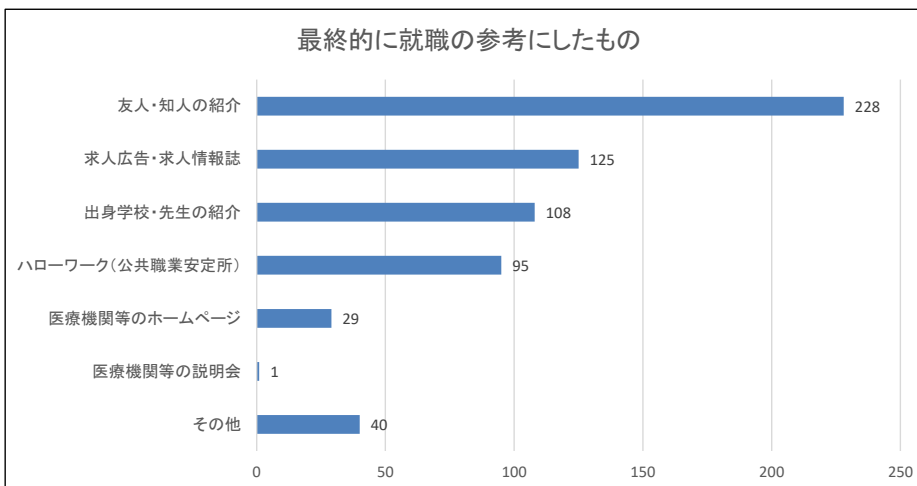
●問13 【問12】で「その他」を選択した方は内容の記入をお願いします。

※その他62名の内訳

	配偶者等の開業、自営	以前の勤務先へ再就職	自ら交渉	元実習先、学生時代のアルバイト先	元通院先	探していない	その他(内容空欄)	その他	合計
回答	13	11	5	4	3	4	9	13	62
割合	21.0	17.7	8.1	6.5	4.8	6.5	14.5	21.0	%

問13「その他」13名の個別回答は別紙

●問14 【問12】のうち、現在の就職に結びついたものは何ですか。



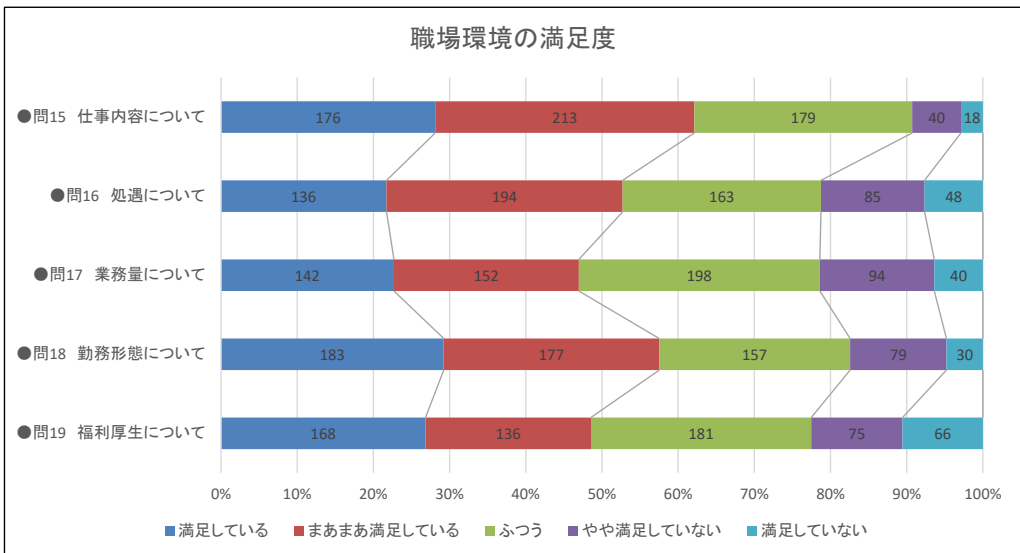
	友人・知人の紹介	求人広告・求人情報誌	出身学校・先生の紹介	ハローワーク(公共職業安定所)	医療機関等のホームページ	医療機関等の説明会	その他	合計
回答	228	125	108	95	29	1	40	626
割合	36.4	20.0	17.3	15.2	4.6	0.2	6.4	%

※その他40名の内訳

	配偶者等の開業、自営	以前の勤務先へ再就職	自ら交渉	元実習先、学生時代のアルバイト先	その他(内容空欄)	近所	その他	合計
回答	9	5	3	3	2	2	16	40
割合	22.0	12.2	7.3	7.3	4.9	4.9	39.0	%

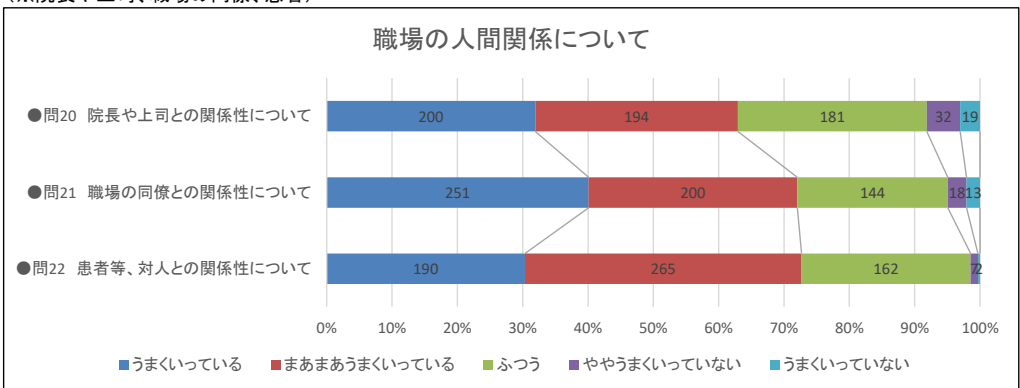
問14「その他」16名の個別回答は別紙

●問15～問19 職場環境の満足度について(満足している、まあまあ満足している、ふつう、やや満足していない、満足していない)  
(※仕事内容、処遇、業務量、勤務形態、福利厚生)

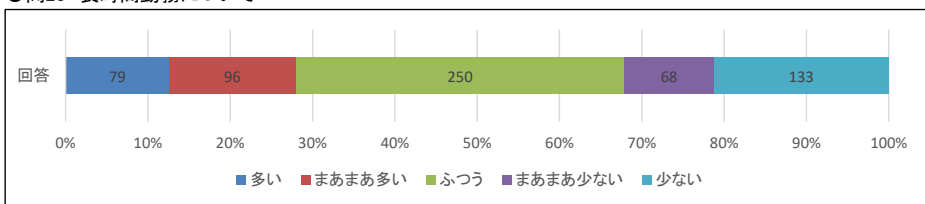


【問15～問19】職場の満足度に関する意識調査として、満足度が低い(やや満足していない・満足していないが20%を超える項目)は「処遇」「業務量」「福利厚生」である。

●問20～問22 職場の人間関係について(うまくいっている、まあまあうまくいっている、ふつう、ややうまくいっていない、うまくいっていない)  
(※院長や上司、職場の同僚、患者)

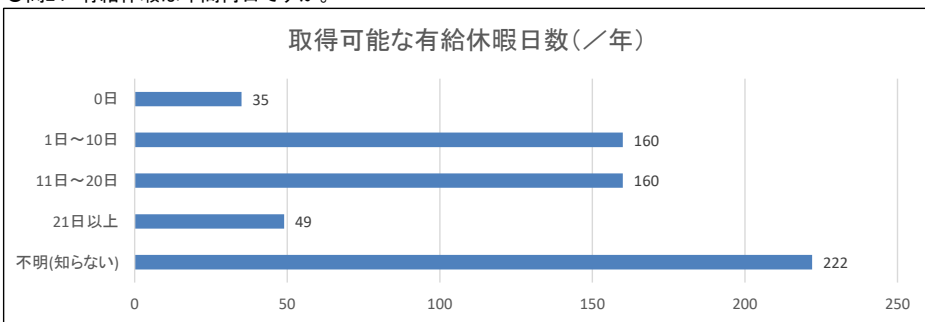


●問23 長時間勤務について



	多い	まあまあ多い	ふつう	まあまあ少ない	少ない	合計
回答	79	96	250	68	133	626
割合	12.6	15.3	39.9	10.9	21.2	%

●問24 有給休暇は年間何日ですか。

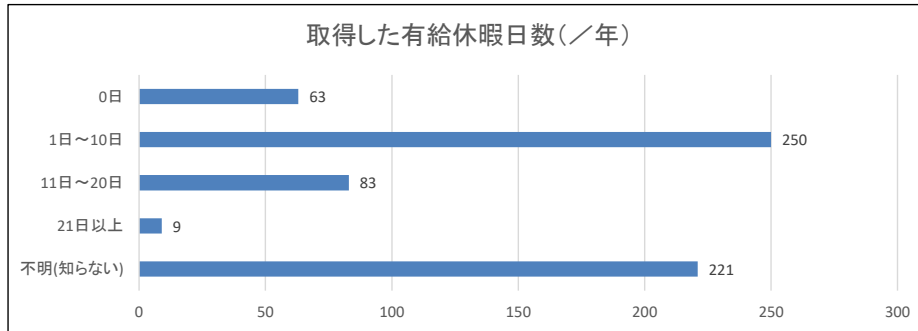


	0日	1日～10日	11日～20日	21日以上	不明(知らない)	合計
回答	35	160	160	49	222	626
割合	5.6	25.6	25.6	7.8	35.5	%

【問24】取得可能な有給休暇を「0日」「知らない(不明)」と回答した者の割合は40%を超える。



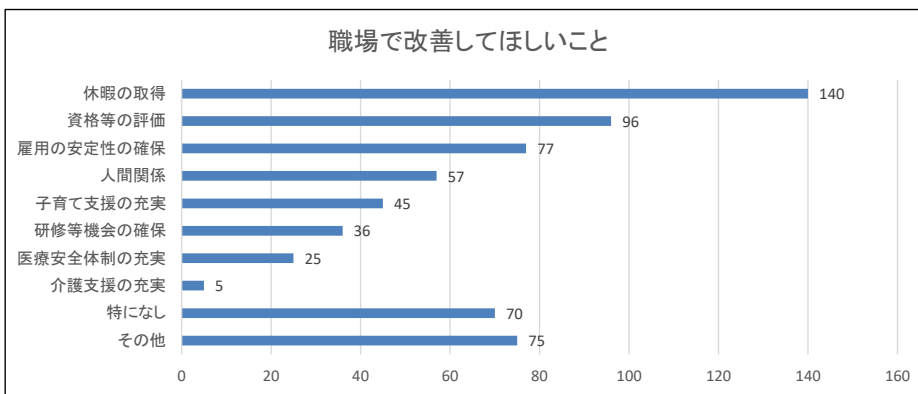
●問25 現在の職場における有給休暇の取得日数を教えてください。



	0日	1日～10日	11日～20日	21日以上	不明(知らない)	合計
回答	63	250	83	9	221	626
割合	10.1	39.9	13.3	1.4	35.3	%

【問25】過去1年間に取得した有給休暇日数を「0日」と回答した者は全体の10%を超え、自身の有給休暇取得日数を把握していない者は35%を超える。

●問26 現在の職場で改善してほしいことは何ですか。

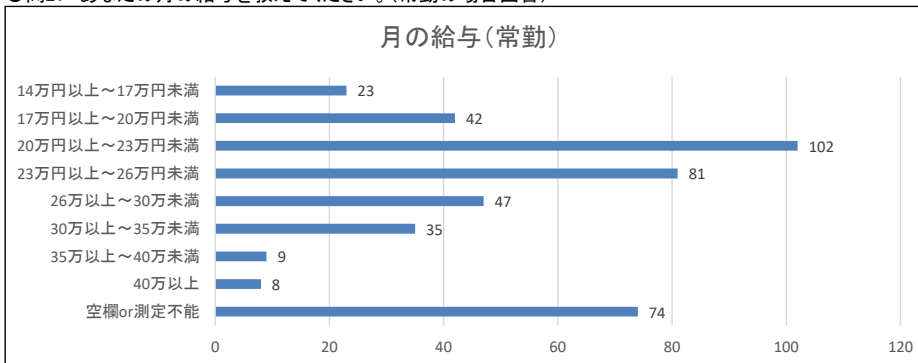


	休暇の取得	資格等の評価	雇用の安定性の確保	人間関係	子育て支援の充実	研修等機会の確保	医療安全体制の充実	介護支援の充実	特になし	その他	合計
回答	140	96	77	57	45	36	25	5	70	75	626
割合	22.4	15.3	12.3	9.1	7.2	5.8	4.0	0.8	11.2	12.0	%

※その他 75名の内訳

	給与	福利厚生	人手不足	業務時間	業務内容	昇給	選択項目複数	その他、個別意見	合計
回答	20	18	9	6	5	3	4	10	75
割合	26.7	24.0	12.0	8.0	6.7	4.0	5.3	13.3	%

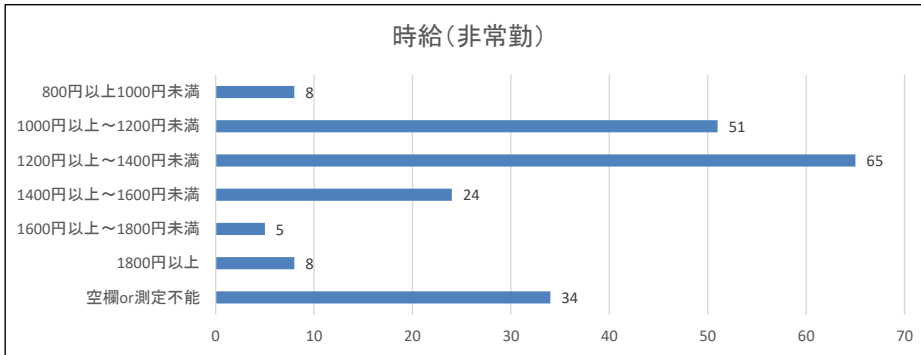
●問27 あなたの月の給与を教えてください。(常勤の場合回答)



基本統計(n=347)	
※空欄or測定不能は除く	
平均	23.44
標準誤差	0.30
中央値	23.00
最頻値	20.00
最小	14.00
最大	60.00

	14万円以上～17万円未満	17万円以上～20万円未満	20万円以上～23万円未満	23万円以上～26万円未満	26万円以上～30万円未満	30万円以上～35万円未満	35万円以上～40万円未満	40万以上	空欄or測定不能	合計
回答	23	42	102	81	47	35	9	8	74	421
割合	5.5	10.0	24.2	19.2	11.2	8.3	2.1	1.9	17.6	%

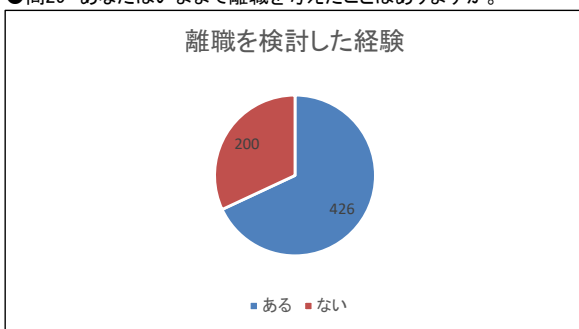
●問28 あなたの時給を教えてください。(非常勤の場合回答)



基本統計(n=161)	
※空欄or測定不能は除く	
平均	1253.53
標準誤差	18.09
中央値 (∫)	1200.00
最頻値 (∩)	1200.00
最小	800.00
最大	2000.00

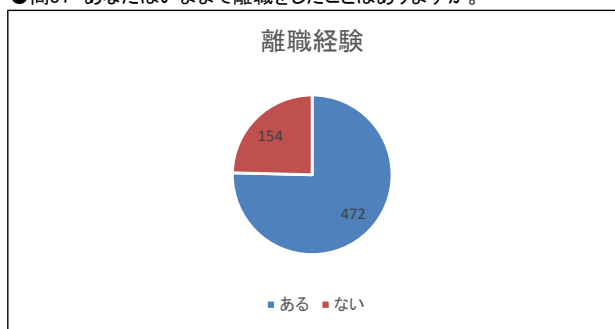
	800円以上 1000円未満	1000円以上 ~1200円未 満	1200円以上 ~1400円未 満	1400円以上 ~1600円未 満	1600円以上 ~1800円未 満	1800円以上	空欄or測定 不能	合計
回答	8	51	65	24	5	8	34	195
割合	4.1	26.2	33.3	12.3	2.6	4.1	17.4	%

●問29 あなたはいままで離職を考えたことはありますか。



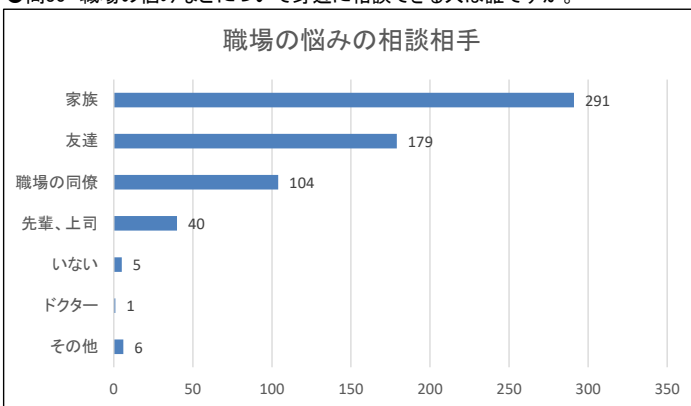
	ある	ない	合計
回答	426	200	626
割合	68.1	31.9	%

●問31 あなたはいままで離職をしたことはありますか。



	ある	ない	合計
回答	472	154	626
割合	75.4	24.6	%

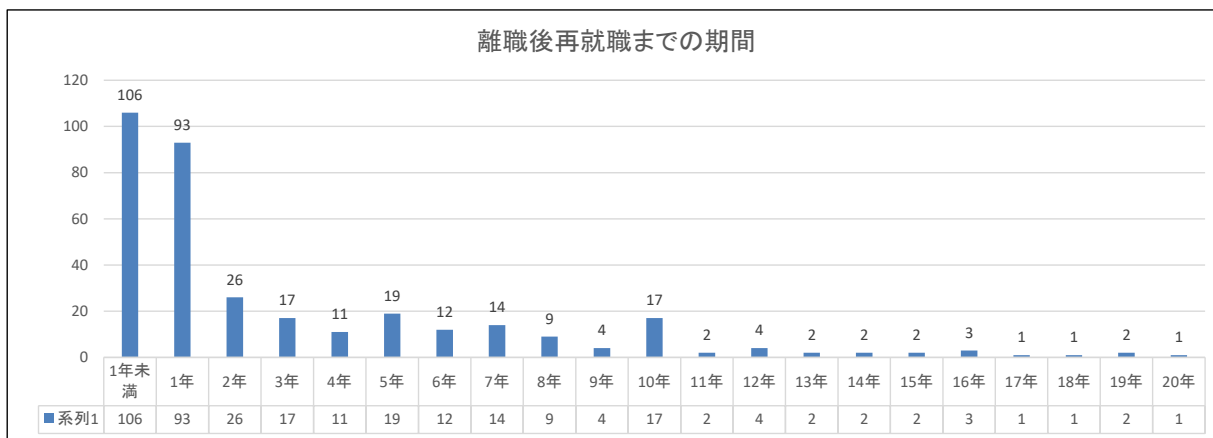
●問30 職場の悩みなどについて身近に相談できる人は誰ですか。



	家族	友達	職場の同僚	先輩、上司	いない	ドクター	その他	合計
回答	291	179	104	40	5	1	6	626
割合	46.5	28.6	16.6	6.4	0.8	0.2	1.0	%

【問30】職場の悩みを身近に相談できる相手に関する質問では、職場の先輩や上司と回答している者は全体の6%である。

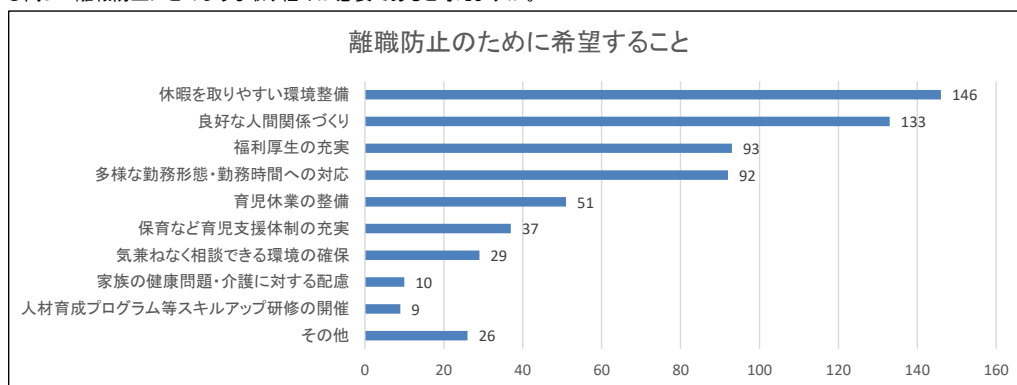
●問32 【問31】で「ある」と回答された方に伺います。離職してから現在の職場へ再就職するまでの期間(年単位)を教えてください。



●問33 【問31】で「ある」と回答された方に伺います。離職した理由を教えてください。(主な回答)

- 1 職場の転居、分院への転勤等による職場都合
- 2 家庭環境の変化による自己都合(結婚による引っ越し等)
- 3 職場の人間関係によるもの(パワハラ等)
- 4 職場の福利厚生によるもの(給料支払い遅延、有給取得できない等)
- 5 勤務医の開業による引き抜き
- 6 診療所閉院

●問34 離職防止にどのような取り組みが必要であると考えますか。



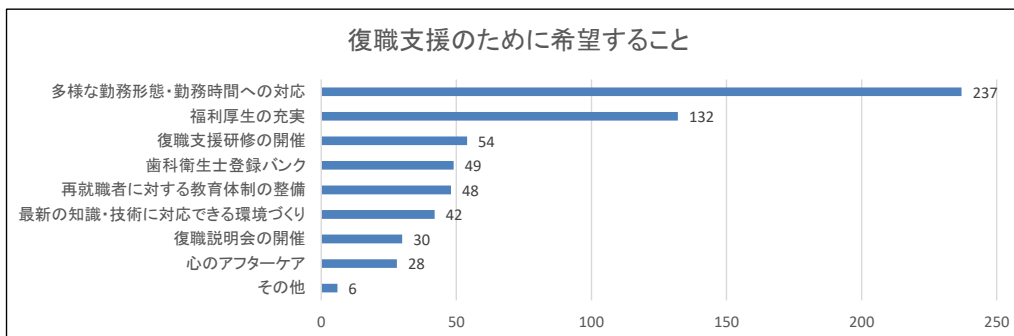
	休暇を取りやすい環境整備	良好な人間関係づくり	福利厚生の充実	多様な勤務形態・勤務時間への対応	育児休業の整備	保育など育児支援体制の充実	気兼ねなく相談できる環境の確保	家族の健康問題・介護に対する配慮	人材育成プログラム等スキルアップ研修の開催	その他	合計
回答	146	133	93	92	51	37	29	10	9	26	626
割合	23.3	21.2	14.9	14.7	8.1	5.9	4.6	1.6	1.4	4.2	%

	給与	選択項目すべて該当	思いつかない	その他、個別意見	合計
回答	9	2	2	13	26
割合	34.6	7.7	7.7	50.0	%

問34「その他」13名の個別回答は別紙

【問34】離職防止のために歯科衛生士が希望する事項として「良好な人間関係づくり」を選択した割合が20%を超え、「休暇を取りやすい環境整備」の次に高い。

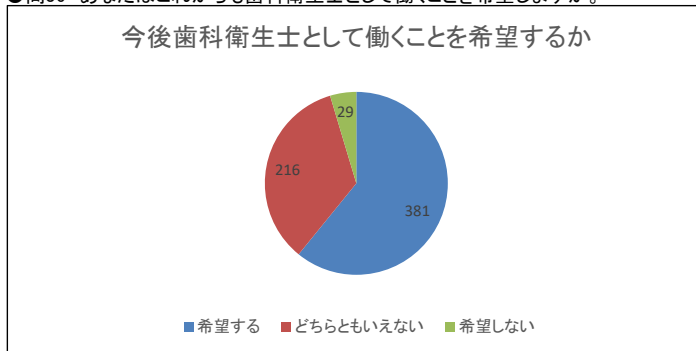
●問35 復職支援としてどのような取り組みが必要であると考えますか。



	多様な勤務形態・勤務時間への対応	福利厚生の充実	復職支援研修の開催	歯科衛生士登録バンク	再就職者に対する教育体制の整備	最新の知識・技術に対応できる環境づくり	復職説明会の開催	心のアフターケア	その他	合計
回答	237	132	54	49	48	42	30	28	6	626
割合	37.9	21.1	8.6	7.8	7.7	6.7	4.8	4.5	1.0	%

問34「その他」6名の個別回答は別紙

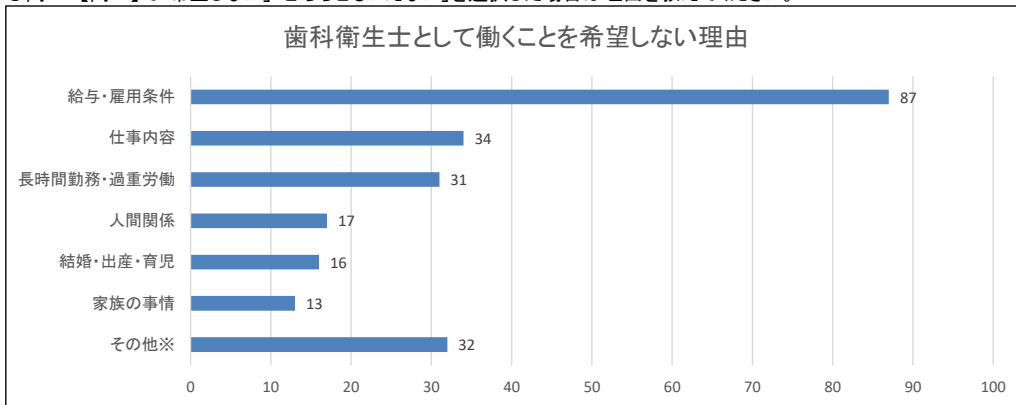
●問36 あなたはこれからも歯科衛生士として働くことを希望しますか。



	希望する	どちらともいえない	希望しない	合計
回答	381	216	29	626
割合	60.9	34.5	4.6	%

【問36】「今後も歯科衛生士として働くことを希望するか」について「どちらともいえない」「希望しない」と回答した合計割合が約40%である。

●問37 【問36】で「希望しない」「どちらともいえない」を選択した場合は理由を教えてください。

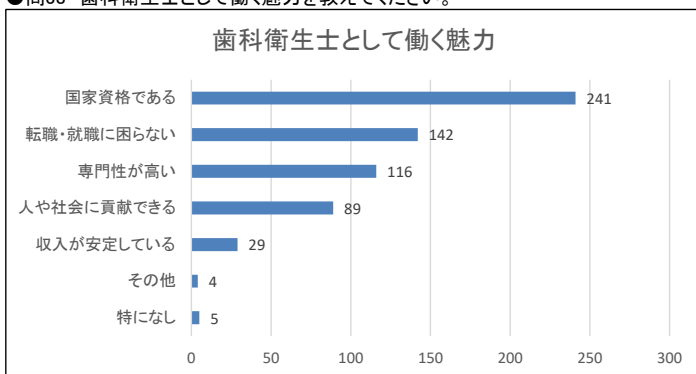


	給与・雇用条件	仕事内容	長時間勤務・過重労働	人間関係	結婚・出産・育児	家族の事情	その他	未回答	合計
回答	87	34	31	17	16	13	32	15	245
割合	35.5	13.9	12.7	6.9	6.5	5.3	13.1	6.1	%

	年齢、体調によるもの	現在他の仕事をしている	他の職種等への興味	その他、個別意見	合計
回答	15	5	3	9	32
割合	46.9	15.6	9.4	28.1	%

問37「その他」9名の個別回答は別紙

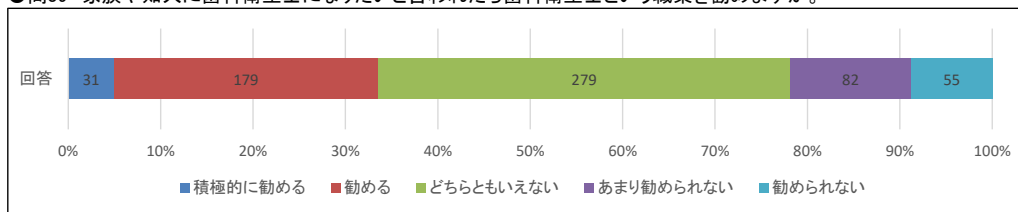
●問38 歯科衛生士として働く魅力を教えてください。



	国家資格である	転職・就職に困らない	専門性が高い	人や社会に貢献できる	収入が安定している	その他	特になし	合計
回答	241	142	116	89	29	4	5	626
割合	38.5	22.7	18.5	14.2	4.6	0.6	0.8	%

問38「その他」4名の個別回答は別紙

●問39 家族や知人に歯科衛生士になりたいと言われたら歯科衛生士という職業を勧めますか。



	積極的に勧める	勧める	どちらともいえない	あまり勧められない	勧められない	合計
回答	31	179	279	82	55	626
割合	5.0	28.6	44.6	13.1	8.8	%

【問39】「家族や知人に歯科衛生士という職業を勧めるか」という問いに対し、「勧めない、あまり勧めない」と回答した割合が20%を超え、また「どちらともいえない」と回答が44.6%である。

<個別回答>

【13】【12】でその他を選択した方は内容の記入をお願いします。	
1	前就業先の分院
2	独立し開業している（ケアマネージャー）
3	閉院後の買い取られ先
4	縁故
5	当時の電話帳
6	前職場の勤務医の先生が新規開業する時に採用してもらった
7	夫の職場より頼まれた
8	法人内の異動
9	事業所の統合
10	院長から声をかけてもらった
11	前の職場からの引き継ぎで入社する事になった。
12	結婚
13	前の職場のドクターが、新規開業で声をかけてもらった

【14】【12】のうち、現在の就職に結びついたものは何ですか。	
1	閉院後の買い取られ先
2	近親者より
3	縁故
4	電話帳
5	衛生士会
6	会計任用職員から正職へ採用
7	歯科医師と仕事で話しやすかった
8	法人内の異動
9	前勤務先の診療所を退職したタイミングで声がかかったため
10	前の職場からの引き継ぎで入社。
11	前に勤務していた医院で、院長先生に声をかけていただいた。
12	結婚
13	旭川から地元へ戻ってくるきっかけがあったため。
14	結婚
15	医院長
16	従業員の退職により勤務する事になった

【34】離職防止にどのような取り組みが必要であると考えますか。	
1	院長のパワハラ認識
2	余裕のある業務量
3	地域に資格所得者がいない
4	業務への充実感や上達感とそれを受容されているという感覚が得られる事
5	ハラスメント対策
6	ストレスを溜めないような本人の過ごし方と、聞いてもらえる環境
7	いろいろあり過ぎて一つに絞れない
8	子育て支援に偏り過ぎの為、権利主張する者が多い。子育て以外の支援の充実が必要。
9	衛生士の資格に対する社会的地位の考え方と待遇
10	福利厚生や給与の充実と、生涯独身でも生活していけるだけの給与の補償、個々の能力に合わせた評価と見合った給与、賞与などの充実など経営者への指導を希望します。
11	労働基準法の遵守。
12	歯科衛生士の地位の向上
13	仕事のやりがい

【35】復職支援としてどのような取り組みが必要であると考えますか。	
1	短期間ずつ関心のある就職先数カ所働き、その中から自分に合った職場を選べるシステムを作してほしい
2	本人の働く気持ち次第
3	わからない
4	福利厚生、給与の充実、有給休暇の取得など経営者への指導。個人経営で歯科医院を開院するための雇用人に対する補償を確実にできる者のみが開院できるよう、歯科医院の体制自体を強化するような仕組みを整える
5	口腔衛生事業の役割
6	給料を上げる

<個別回答>

【37】【36】で希望しない、どちらともいえないを選択した場合は理由を教えてください。	
1	歯医者との相性
2	仕事量に対しての給料が見合わない 少人数職場が多いため有給が取りにくい
3	今後は口腔ケアの分野でスキルアップをしたいと考えていますが、求人枠はほとんどが歯科医院や総合病院の口腔外科で、口腔ケアでの求人募集が少ないこと。
4	他の職業に興味があるため
5	行政の歯科衛生士歴が長く、診療経験が浅いため。
6	自信が無い
7	正社員で働きたいが勤務時間が子育て中だと夜遅過ぎるため。
8	手荒れが原因なので、復職は、考えてません。
9	充分長く働いた

【38】 歯科衛生士として働く魅力を教えてください。	
1	現在ケアマネとして勤務しているので、歯科衛生士として仕事はしていない
2	自分の成長
3	ステップアップが直接感じられる。知識、患者さんからの信頼。
4	資格があるので、給与は安いですが、仕事には困らない

## 【考察】

### ○集計結果からみえる傾向と課題

全体の90%が歯科診療所に勤務しており、歯科衛生士養成校卒業後の就職先としても、同様の傾向がみられる。(別添1参照)

現在の職場における勤務年数については3年以内であると回答した割合が全体の38%であり、うち「1年以内」と回答した者が一番多く、「10年以上」と回答した者は全体の29%に留まっている。(・問9参照)

また、「離職経験がある」と回答した者が75%を超えることから、職場の変更が比較的しやすい職種であり、早期の転職が多いことが予想される。(・問31参照)

歯科衛生士という職業の魅力として、専門性が高く、人や社会に貢献できる国家資格であるという結果が得られている。(・問38参照)

一方で、近年では養成者数が増える中、卒業後、20代前半で勤務する割合が減少していることから、早期離職も多いことが推測されるため、卒業後、社会進出した若年層が継続して勤務したいと思える支援体制が求められる。(別添3参照)

歯科衛生士が離職防止のために希望することとして、「休暇取得」をはじめ、多様な勤務形態・勤務時間への対応、育児休業の整備、福利厚生充実といった「時間の確保」に関する要望が上位を占める他、「良好な人間関係づくり」を希望する割合が高い。

また、復職支援として必要だと考える取組みは、離職防止に希望することと同様の傾向がみられる。(・問34,問35参照)

さらに、復職支援研修会や復職説明会の開催といった要望があるものの、離職者へ向けた周知が困難な状況であることから復職支援に関する情報の周知方法についての検討が必要である。(・問35参照)

職種の特徴として女性が多いことから、結婚・妊娠などを機に職場を離れる可能性も高く、子育てを行いながら仕事を続けるための労働環境整備が求められる。

また、人間関係を理由に退職する者も多い結果から、上司や先輩に相談しやすい職場内の環境整備も必要であると考えられる。(・問30参照)

### 参考資料

・別添「歯科衛生士の近年の勤務状況」

### ○上記課題へ向けた今後の検討事項

以上から、就業歯科衛生士の職場への定着と、卒業後すぐの若年層に対する早期離職防止に向けた取組について検討する必要がある。

職場への定着のためには、歯科衛生士が働きやすい労働環境づくりや働き方改革の推進へ向けた取組について検討が必要であり、若年層の歯科衛生士については、離職防止セミナーの開催等、支援する機会の確保が必要であると考えられる。

また、離職者の復職支援に関する取組について、情報提供が難しいという課題もあることから、関係機関・団体とともに、その方法について検討する必要があると考えられる。